

4 蒼柴神社

長岡市民が「お山」として親しんでいる悠久山にある神社です。長岡藩3代藩主 牧野忠辰公を主祭神とし、境内には北越戊辰戦争と西南の役の旧長岡藩士犠牲者を祭祀した招魂社、牧野家歴代の御霊廟のほか、悠久山公園内には河井継之助の碑もあります。

●住所／長岡市悠久町707 ●電話／0258-33-1769



3 長谷川邸

間口約70メートル、奥行120メートルと広大な敷地内には県内最古の豪農の館であることを示す建築様式が随所にみられ、周囲に濠をめぐらせているのが特徴の建物です。広い土間から戦で傷ついた継之助が運び込まれる野戦病院となった昌福寺のシーンが撮影されました。

●住所／長岡市塚野山773番 ●電話／0258-94-2518 ●開館時間／9:00～16:30(4月1日～11月30日) ●観覧料／大人420円



9 居食亭 東忠

1730年頃に創業されたと伝えられる料亭。小千谷談判に破れ、慈眼寺を後にした継之助が随行した目付の二見虎三郎とともに昼食をとった場所です。実際に滞在した「梅の間」の座敷も残されています。現在はランチやカフェ、宴会などでも利用できます。

●住所／小千谷市元町11-11 ●電話／0258-82-2033

17 東桂苑

明治38年建築、国指定重要文化財渡邊家の分家にあたり、日本瓦葺奇楼造りの風格ある建築物です。館内ではコーヒー、アイスクリーム、そば(土日のみ)を提供しているほか、庭園を眺めながらいただくことができるお弁当(要予約)もあります。継之助の従者 松蔵の屋敷として見ることができす。

●住所／岩船郡関川村下関906-2 ●電話／0254-64-0252 (関川村自然環境管理公社) ●開館時間／9:00～16:00(4月中旬～11月上旬) ●入館料／今年度無料



8 慈眼寺

慶応4年5月2日河井継之助が藩主の軟順書を持参し、西軍の軍監 岩村精一郎と講和談判を行った場所。慈眼寺には、会見の間のまま保存されており、ほかに戦闘絵図、関係遺品が保存されています。

●住所／小千谷市平成2-3-35 ●電話／0258-82-2495 ※要事前問合せ ●拝観時間／9:00～17:00 ●拝観料／ひとり300円

15 慈光寺



境内の七堂伽藍は江戸後期の再建で、かつての修行道場としての面影を多く残す、国の登録有形文化財です。参道に立ち並ぶ樹齢300～500年の杉の巨樹は静謐な雰囲気の中で峠道や光福寺の本宮として登場しました。

●住所／五泉市蛭野870 ●電話／0250-58-4000 ●拝観時間／9:00～16:30(4月～10月)、9:00～16:00(11月～3月)

16 雲洞庵

越後一の寺でおよそ1,300年の歴史があります。赤門から本堂にまで続く参道の石畳の下には法華経が一石一字ずつしるしてあり、踏みしめて参拝するとその利益に預かるとされています。物語を左右する小千谷談判の場面が撮影されました。

●住所／南魚沼市雲洞660 ●電話／025-782-0520 ●拝観時間／9:00～17:00(4月中旬～11月)、10:00～15:30(12月～4月中旬) ●拝観料／大人300円



18 渡邊邸

村上藩主の家臣であった初代儀右門善高が関川村に転居した1667年以来的旧家です。3000坪の敷地に500坪の大邸宅と6つの土蔵が建ち並ぶ国指定重要文化財です。継之助の髪を結う姿、おすがと戦の世の中で一時の平穏な時間を過ごす河井家の邸宅として使われました。

●住所／岩船郡関川村下関904 ●電話／0254-64-1002 ●開館時間／9:00～16:00 ●参観料／大人600円



2 佐潟水鳥・湿地センター

県内でも最大級の淡水湖 佐潟は水鳥の生息地として重要な湿地を保全するラムサール条約の登録湿地です。ここでは「八丁沖の戦い」と呼ばれる現在の長岡市富島町周辺の沼地を長岡城奪回のため、夜間のうちに全軍600余名をひそめて潜行した場所で、実際に多くのエキストラの協力を得て撮影されました。

●住所／新潟市西区赤塚5404番地1

7 西脇邸

小千谷縮を扱う間屋、西脇家が江戸時代に建てた邸宅。本邸は築280年余、客室として利用した新座敷も築100年余となります。現在はイベント毎に庭園のみ公開中。劇中には継之助が長岡基句を軽快に踊る旅籠棋屋として登場します。

●住所／小千谷市本町2丁目7番6号 ●電話／0258-82-3000 ●開館時間／要確認



14 市島邸

市島家は、有数な大地主の一つで、明治初期に作られた600余坪を有する風格ある邸宅と池を配した8000余坪の広大な回遊式庭園が特徴です。仏間や部屋は自然豊かな庭や竹林も登場します。

●住所／新発田市天王1563 ●電話／0254-32-2555 ●開館時間／9:00～17:00(4月～11月)、9:00～16:30(12月～3月) ●入館料／大人620円、小中学生310円



1 北方文化博物館

所蔵品展「幕末志士の遺墨展～映画『峠 最後のサムライ』によせて」を6/4(土)～8/28(日)に開催予定

河井継之助はじめ西郷隆盛、山縣有朋、西園寺公望ら北越戊辰戦争に関係する人物の真筆をご覧ください。

●住所／新潟市江南区沢海2丁目15-25 ●電話／025-385-2001 ●開館時間／9:00～17:00(4月～11月)、9:00～16:30(12月～3月) ●入館料／大人800円

越後の大地主伊藤家の旧大邸宅。広大な8,800坪の敷地には主屋、大広間、茶室、蔵といった建物をはじめ、四季折々の姿を見せる池泉回遊式庭園、歴代当主によるコレクションなどの美術品を鑑賞できます。長岡藩が一同にそろう踏みする藩邸宅の場面で荘厳な雰囲気の中、撮影されました。

●住所／新潟市江南区沢海2丁目15-25 ●電話／025-385-2001 ●開館時間／9:00～17:00(4月～11月)、9:00～16:30(12月～3月) ●入館料／大人800円



6 八丁沖古戦場パーク

かつて長岡城の北東に広がっていた広大な沼地は八丁沖(八町沖)と呼ばれ、現在の大黒、百東、四ツ屋、富島、亀貝一帯の東西3km、南北5kmに広がっていました。跡地には石碑と解説碑が設置され、八丁沖古戦場パークとして整備されています。現在のはどかな水田が広がっているため、佐潟で築造のシーンが撮影されました。

●住所／長岡市富島町



13 新発田城

別名「あやめ城」。新潟県内で江戸時代のまま残る唯一の城郭建造物です。本丸表門と旧二の丸隅櫓が現存し、国指定重要文化財となっているほか、三階櫓と辰巳櫓が復元されています。戦が始まり慌ただしく兵が闊歩する長岡城内の様子が当時の様子を残す新発田城を活用することで臨場感をもって描かれています。

●住所／新発田市大手町6丁目 ●公開時間／9:00～17:00(4月～11月) ※11月のみ16:30閉門 ●入場料／無料

11 朝日山古戦場



劇中でも朝日山として登場する古戦場。北越戊辰戦争の際、長岡藩の拠点となった朝日山は、榎峠とともに新政府軍の山道軍に対する要害でした。当時の砲座跡と河井継之助が築かせたというフランス兵法による塹壕の一部が残っています。

●住所／小千谷市蒲町

12 オオクラ見晴台

信濃川、川口方面を一望できるスポットです。林道川井線沿いにあり、通称「オオクラ見晴台」と呼ばれています。慈眼寺の会談が決裂した後、戦争の火蓋が切られた榎峠として登場します。

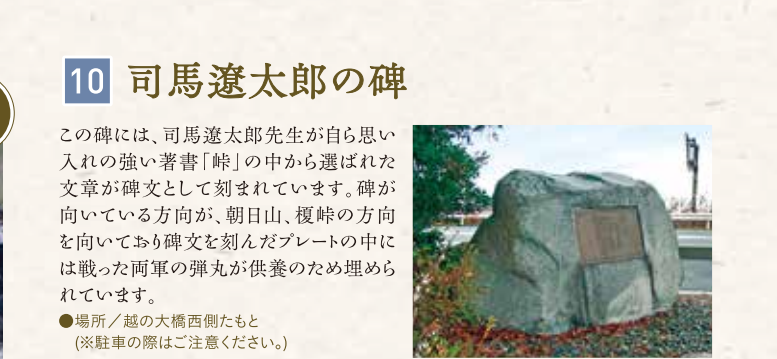
●住所／小千谷市川井



5 河井継之助記念館

継之助が西国遊歴の際に書いた旅日記「鹿壺」や司馬遼太郎の小説「峠」の自筆原稿などゆかりの品、約30点を展示する記念館。生家跡にオープンした施設で継之助が暮らした当時の面影が残る庭を眺めることもできます。

●住所／長岡市長町1丁目甲1675-1 ●電話／0258-30-1525 ●開館時間／10:00～17:00 ●観覧料／大人200円



10 司馬遼太郎の碑

この碑には、司馬遼太郎先生が自ら思い入れの強い著書「峠」の中から選ばれた文章が碑文として刻まれています。碑が向いている方向が、朝日山、榎峠の方向を向いており碑文を刻んだプレートの中には戦った両軍の弾丸が供養のため埋められています。

●場所／越の大橋西側たもと (※駐車の際はご注意ください。)



峠 最後のサムライ

ロケ地マップ

Location map

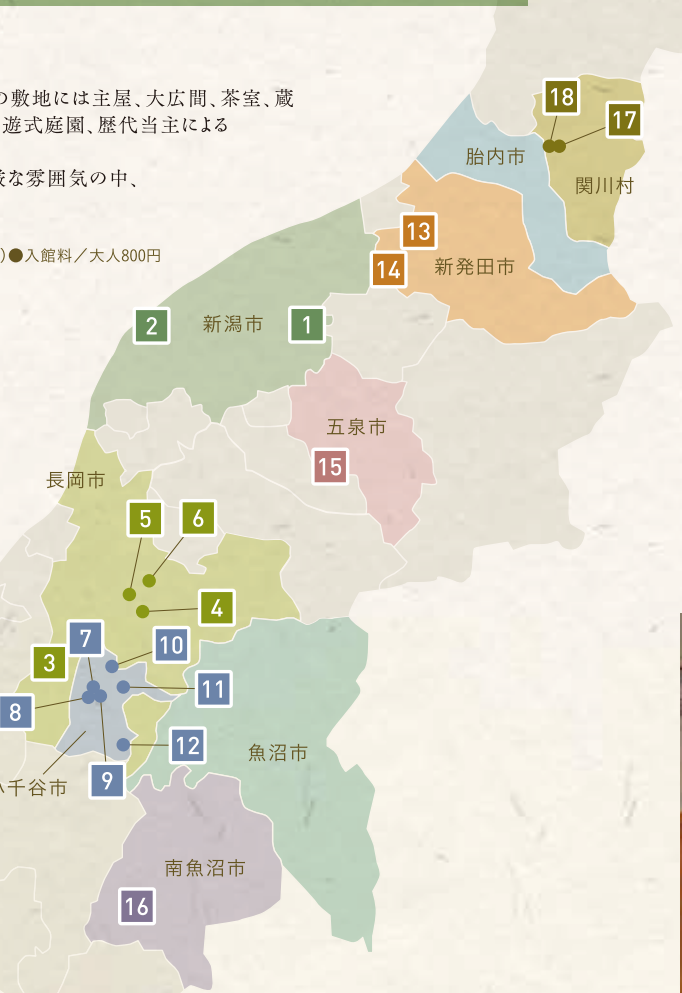
河井継之助ゆかりの地&「峠 最後のサムライ」ロケ地徹底ガイド

2018年9月から11月にかけて

行われた撮影を振り返る。

新潟県内に点在する継之助ゆかりの地や撮影地を巡り、その足跡をたどろう！

ロケ地スポットマーク



只見町河井継之助記念館



終焉の地、只見町塩沢地区にある記念館。戊辰戦争や小説「峠」に関する資料の展示。館内には、河井継之助が亡くなった終焉の間(部屋)が当時の面影のまま保存されています。

●住所／福島県南会津郡只見町塩沢上ノ台850-5 ●電話／0241-82-2870 ●開館時間／10:00～16:00(冬季休館11月中旬～4月下旬まで) 休館日:毎週木曜日・荒天の日 ●観覧料／大人350円、小人200円 ●継之助に関わるオリジナル商品/Tシャツ、巾着、クリアファイル、手ぬぐい等

Check!!
関連施設

兵学所のオープンセットができるまで

兵学所は長岡藩士の鍛錬場として、北越戊辰戦争の際に西軍が奇襲攻撃で上陸する場面として登場します。



旧長岡藩士 小川当知 おがわ とうち の画
「倭国難討下兵学所の図 長岡市文書資料室所蔵」
この絵を参考に兵学所のセットが組まれました。
左奥の三角形の山は信濃川手前の土塁で、射撃訓練なども行われていたのではないのでしょうか？
映画のセットでは土塁弓修練場が作られました。



さて、時をさかのぼること2018年4月。当初 信濃川の妙見堰下流を予定していましたが、再度6月に見に行くと、ときには水位が下がっており、梅雨時の暴漲した川に見えなくなっため、別の場所を探すことになりました。
信濃川大河津から長岡市川口まで何回も往復し、ようやく与板橋下流に候補地を発見！
その場所は長岡市与板地域、大河津分水の少し上流で過去の大水でも水がいたことが無場所でした。そのため、大水が発生しない限り堰は解放されることなく、水量が安定しているため、兵学所を建てるにはもってこいの場所でした。
しかし、問題も...。
大根などか植えてある畑ということ、河川敷内に構築物設置をするということ。
映画の内容や撮影の意図を伝え、地元農家の理解と河川管理の国土交通省から条件付で許可を得ることができました。
劇中にも北越戊辰戦争の際、西軍が奇襲攻撃で上陸してきた様子が描かれますので、ぜひ映画館でお楽しみください。

